

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390300263		
法人名	株式会社医療給食		
事業所名	グループホームオアシス大空 さくら		
所在地	ws		
自己評価作成日	令和元年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体が医療給食であり、高齢者の配食サービスに力を入れている為、食事形態をひとりひとりに合わせて対応することが出来る。  
利用者ひとりひとりのペースに合わせて支援していく。色々なレクリエーションをし、充実した日々を過ごしていただく。ひとりひとりの病気やADLに合わせ、食事の形態を考えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigyo_syoCd=2390300263-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigyo_syoCd=2390300263-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは3ユニットで運営している事業所であるが、1ユニットの利用者の定員が7名であることで、9名のユニットと同じ職員配置が行われていることが当ホームの特徴でもあり、利用者一人ひとりに寄り添った支援にもつながっている。職員間で検討を重ねながら、利用者の意向にも合わせた支援が行われており、利用者の意向等に合わせた外出支援等も行われている。継続した取り組みとして、毎日のおやつ作りがあり、手作りのおやつを提供を行いながら、利用者の楽しみにつなげる取り組みが行われている。また、当ホーム独自の取り組みとして、毎日の申し送りについて、職員の協力を得ながら二か国語で行う工夫が行われている。全職員に利用者に関する支援内容や業務に関する情報を共有しながら日常の利用者への支援につなげ、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年12月26日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・たびたび口に出して言うようにしている。” やすらぎのある生活に笑顔と思いやりがあり、喜びを分かち合う”。 ・理念が共有できる職員は、実践につなげようと努力しているが知らない職員もいる。	職員にも伝わりやすい言葉で理念を考えており、「思いやり」と「笑顔」を支援の基本に考えている。職員には管理者からも理念に関する働きかけ等の機会をつくりながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地域の活性化、交流を図ることを目的とした祭りへの参加を行っている。 ・日常的な交流はできていない。	地域の方との交流については、近隣の市営住宅で行われている行事等を通じた交流の機会がつけられている。また、ホームにボランティアの方の訪問が得られており、利用者との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・職員からは、地域へ発信できていないと思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・ご家族様への現状の報告とご意向に沿って、これからの対応について話し合いを持たせていただいている。 ・サービス向上に活かされている。	会議の際には、利用者の細かな状況等の報告が行われており、出席者にホームの現状を知ってもらい働きかけが行われている。会議に複数の家族の参加が得られており、定期的な家族との交流にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・取り組んでいると思われる。	ホームに生活保護の方が生活していることで、市担当部署との情報交換等が行われている。研修会等への参加については近隣にある関連事業所を通じても行われている。また、地域包括支援センターとの交流についても、研修会等を通じて行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・取り組んでいる。 ・玄関の施錠はありますが、他の身体拘束はないよう取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、職員間で利用者に合わせて支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討会議や職員研修の取り組みを行いながら、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・防止に努めている。 ・努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・学ぶ機会は現在のところないが、理解し活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・利用者、家族等のご意向を含め、契約時、対応変更時に書類、資料をもって説明をし、同意を得ている。 ・図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・反映させていると思われる。	ホームで行われている行事等を通じた交流の機会が作りながら、家族との交流が行われている。ホーム内に法人代表者の連絡先が掲示されており、利用者や家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・反映させている。	ホームでは、申し送りを二か国語で行う等、独自の工夫が行われており、全職員との情報交換を行いながら、意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談を行い、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・職員の働き方、給与水準、シフトなど、希望を聞いて話し合いを持てる環境下にある。 ・代表者については分からない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・社外への講習会の案内や職員同士、経験や体力を活かし合いながら、お互いのスキル向上に努めている。 ・代表者については分からない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・代表者については分からない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・施設見学をし、これからの生活を想像してもらうことで、良い関係づくりに努めている。 ・努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・日々の生活のなかで、役割を持っていただくことで、安心と信頼に繋げている。 ・築いているが、一部できていない職員がいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・共に生活するうえでの助言をし合うこと、役割をもつことで関係を築く。 ・築いているが、一部できていない職員がいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・努めている。 ・友達と手紙交換をしたり、喫茶店に行ったり、友達が面会に来られた居室で話ができるよう支援している。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームにホームに訪問して交流したり、家族の協力を得ながら行きつけの美容院を継続している方もいる。また、家族との外出も行われており、身内の方の墓参りや法事等を通じた交流の機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・本人同士の相性、性格を考え、対立しないよう間に入ったり、同じような境遇の方同士関わり合いを持てるような支援をしている。 ・努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・業務範囲外の事で分からない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・意志表示できる方は必要なときに援助し、重度化により困難な場合は気持ちを汲み取り、ご家族の思いを反映するよう努める。 ・把握に努めている。検討している。	日常的に利用者一人ひとりに合わせた意向等の把握が行われており、申し送り等を通じて職員間で利用者に関する意向等の共有が行われている。また、随時のカンファレンスが行われており、意向等を日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・関係者からの話、記録をもとに、その人の”これから”に役立とうとする。 ・努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・よくその人を見て、周りの人の話に耳を傾ける(本人様含む)。 ・努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・関わる人と話し合い、意見を持ちたり出したり、聞いたりし、本人、家族の意向に沿って作成する。関わり合う。 ・話し合い、意見やアイデアを反映し作成している。	介護計画については、3か月での見直しが行われており、モニタリングについても介護計画の見直しに合わせて実施している。介護計画の内容を職員間で共有できるように、二か国語で情報交換を行う等の取り組みが行われている。	介護計画の見直しは3か月で行われているが、家族との介護計画に関する面談等が2年までになっているため、可能な範囲で、より短期間での取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の記録を分かりやすく、詳しくすることなどで実践に活かしている。 ・活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・定期往診に加え、本人の体調に合わせ、臨時検査を行い、安心して生活できるよう支援している。 ・支援している。	協力医との医療面での定期的及び随時の連携が行われており、現状、全員の利用者が協力医をかかりつけ医としている。利用者の状況等に合わせた、ホーム職員による受診支援も行われている。また、看護師による医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・利用者本人の変化について、介護職、看護職間で伝えあい、正に適切な受診、看護を受けられるよう支援している。 ・支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・施設代表者、看護職は病院側と情報交換あるいは、本人のもとへ出向き、状態を確認している。 ・行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・ご本人の状態をみて、ご家族様と話し合いの機会を設け、方針の共有をする。 ・取り組んでいる。	ホームでの看取り支援についても、様々な状況等にも合わせながら対応しており、協力医との連携を深めながら、ホームで最期を迎えた方もいる。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いを行いながら、意向等に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・定期的に救命講習を行う、受講して身に付け、そのときに活かすよう努めている。 ・定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・事業所をプロである消防隊の目で見え頂き、アドバイスを頂いて、不意の災害に対する行動も準備している。 ・地域との協力体制を築いているか、範囲外の職種の為、分からない。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設している障害の方のケアホームとの合同の訓練を実施しており、事業所間での連携につなげている。また、備蓄品については、ホーム内及び運営法人で確保している。	備蓄品の保管場所がホーム建物の外にあるため、水害の際には取りに行けない状況が考えられるため、非常災害に関する運営法人との連携を深める取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の気持ちを汲み取って接するように心掛けている。</li> <li>・対応に心掛けている。</li> </ul>	ホームの基本理念にも掲げている「思いやり」を職員に伝えながら、職員による利用者の対応や言葉遣い等につなげる働きかけが行われている。また、職員の接遇につなげる研修の機会をつくり、注意喚起等につなげる取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり無理強いせず、寄り添えるように振る舞っている。接している。</li> <li>・働きかけている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の意志、ペースに合わせ、その日ないしはその日々をどう過ごしていくかを考えていく。そして実践にうつす。</li> <li>・支援している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人のその日の気分などに合わせられるような支援をしている。</li> <li>・支援している。</li> <li>・好みのシャンプー、リンスなど、使っていたいでいる。化粧水など、つけたい方は自由に使ってみえる。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その一人ひとりが出来ることをして、やりがいを持ち、役割を持って互いが関わり合えるよう支援している。</li> <li>・利用者はメニューは決められないが、共に片付けをしている。準備はスタッフが行っている。</li> <li>・ひとりひとりの好みを聞き、嫌いな物を出さない様にしている。できる方は後片付けなど、職員と一緒にしている。</li> </ul>	おかず類は運営法人から提供を受けており、専用の調理器具を活用しながらホームで盛り付けが行われている。ホームでは毎日のおやつ作りが行われており、利用者の楽しみにつなげている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日を通して、必要であろう水分量、栄養素を柔軟に摂れるよう支援している。</li> <li>・支援している。</li> <li>・食事摂取量が少ない方などには、栄養補助食品などをお出ししている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の状態に合わせ、磨き残しがないかのチェックをし、口腔内の清潔保持に努めている。</li> <li>・行えている。</li> <li>・できている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	その人の排泄パターンをみて、なるべくトイレで排泄できるような支援をしている。 ・自立に向けた支援を行っている。	利用者全員の排泄記録を残し、職員間で利用者の排泄に関する情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、看護師との排泄に関する医療面での連携を行い、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・下剤等に頼り過ぎず、乳製品の活用、水分摂取の促しに努めている。 ・取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・本人様の体調、予定、好みに合わせ、タイミングを見て、楽しめるように働きかけている。 ・職員の都合で出来る限り午前中中心の入浴になっている事が多い。	利用者の状況にも合わせながら、1日おきの入浴が行われており、利用者の中には毎日のように入浴している方もいる。利用者の身体状態に合わせた職員にした2名での支援が行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・レクリエーションやおやつタイムを通して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	・月に何度か、その季節も感じられ、現地の設備等考慮し、安全でやすらげる外出支援をしている。 ・その日の都合にそって、戸外へ行けるよう努力はしているが、なかなか行けない現状。	関連事業所とも連携しながら自動車の確保が行われており、利用者の個別の外出支援を含めた様々な外出の機会がつけられている。関連事業所の行事に参加したり、区内の認知症カフェに参加する機会をつくり、利用者の外出の機会につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を所持し使えるよう支援できないが、立て替えで買い物にスタッフと行っている。</li> <li>・お金の所持はできる方はしている。出来ない方は、お預かりして買い物等、職員付き添いで行っている。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な方と電話でお話したり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</li> <li>・支援している。</li> <li>・携帯を持つ方は持ってもらったり、施設に公衆電話があるので自由に電話できている。手紙は職員が預かり出しに行っている。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。</li> <li>・共用の空間ではその季節の飾り付け等し、刺激のある光は消したりしている。各ユニット、居室に温度湿度計を付け、冷暖房等調節している。</li> </ul>	ホーム内は限られた広さではあるが、アットホームな雰囲気をつくりながら、利用者の毎日の生活をのんびりと過ごすことができるような生活環境がつけられている。また、リビングの壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独りになれる空間は共用場には設けていない。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の嗜好に合った、馴染みのものを心地良く使えるように工夫している。</li> <li>・一部工夫できない方がいる。</li> </ul>	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室にベッドが設置されているが、利用者の身体状態等に合わせたベッド以外の生活を継続している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫している。</li> </ul>		